



七つ星
校訓 「志高く」

学ぶこと

校長 前田 倍成

満男「おじさん、大学へ行くのは何のためかな。」

寅「決まっているでしょう。これは勉強するためでしょう。」

満男「じゃあ、何のために勉強するのかな。」

寅「うん……そういう難しいことをきくなって言ったら、おまえに。つまり、あれだよ、ほら、人間、長〜い間、生きていれば、いろんなことにぶつかるだろ。な、そんな時に、俺みてえに勉強していないやつは、この振ったサイコロで出た目で決めるとか、その時の気分で決めるよりしょうがないな。ところが、勉強したやつは、自分の頭できち〜んと筋道を立てて、はて、こういう時はどうしたらいいかなと考えることができるんだ。だから、みんな大学に行くんじゃないか。」

映画『男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日』（山田洋次監督 S63）

昭和の名作映画の一場面です。「なんのために勉強するのか」という問いに、ぼくとつな表現の中にも、ある意味、鋭く核心を突いて答えているように思えます。

今年度完全実施となった新学習指導要領では、今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、社会構造や雇用環境が大きく、また急速に変化する厳しい挑戦の時代、予測が困難な時代となっていると想定しています。

つまり、子どもたちが将来、そのような状況の中でも確実に「生き抜いていく力」を付けることが重要だということです。その基礎・基本となる知識・技能、そして考え方を、今まさに学習し、身に付けようとしているということになります。机上での学習だけではなく、冒頭の写真にあるようなボランティア活動など様々な形での学習活動や、生活の中での問題解決の過程で、身に付けた知識・技能、見方・考え方を使い、活用させることが、更に学びを深めていくわけです。

「勉強とは生きることだ。東大生が育った家庭の多くでは、勉強と生活が密接に関わっている。例えば子供を買い物に連れていき、野菜の育ち方を教え、お金の計算をさせる。散歩をしながら雨と雲の関係を説明し月や星の動きについて話して聞かせる。勉強と生活が一体化していれば様々な経験を積むと自然に知識が蓄えられていく。」 三田紀房『ドラゴン桜』（講談社）

ドラマ化などもされた平成の大ヒットマンガからの一節です。東大というところは度外視していただいても、要は、何気ない普段の生活や体験の中に、多くの学びがちりばめられているということ、そして今学んでいることが、自分の生活や環境、あるいは将来の夢の実現に、どうつながるのかを明に暗に気づかせていくことが大切だということです。

ですから、学校の教員は、学習内容をなんとか子どもの日常につなげて自分事として考えさせたいと日々模索するわけです。そして「知っている」だけでなく「知っていることをつかって考え、問題を解決する」力を身に付けさせたいわけです。最近の教科書などはそれが色濃く表れています。

おうちでも時間があれば、今日学習したこと、宿題になっていることが、身近な生活、将来の夢につながっていることをお話ししてあげてください。最後に、もう一つ名映画のワンシーンを。

「じゃ本当の幸せって何かな。」

エリ子「それを探すのが本当の勉強じゃないかな。」

「教師になるために大学に行く。そして、夜間中学に戻ってくる。」

映画『学校』（山田洋次監督 H5）

—— 継続は力なり！頑張ってます ② ——

【SHIKA ELEMENTARY SCHOOL “ENGLISH CHALLENGE”】

7月の全校テレビ集会で、頑張って目標を達成した人に認定書を渡しました。今回も同様に目標達成者を紹介します。認定書は機会をあらためて渡します。よく頑張りましたね、次の目標に向かって新たなチャレンジを。少しずつでも続けることが、いつか自分の力になっていきます。

12級 : 3年生 小坂 惺, 酒井 陽彩, 堀野 連, 道谷内 朋花, 稲岡 慎之助
岡部 杏奈, 谷口 詩依, 堂高 柚
4年生 平野 結花, 上野 俐空, 坂本 日菜多, 中本 皓貴
18級 : 2年生 板尾 和奈 5年生 工藤 珠音, 小松 望夢, 田中 真依
19級 : 2年生 小栗 怜大
22級 : 2年生 後藤 那菜子 5年生 若松 真衣
6年生 海老口 優衣, 山田 菜々美

—— 保護者のみなさまへ ——

◇ 授業参観（9月15日、18日）にあたって

すでにお知らせしたとおりですが、次の2点の「徹底」についてご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

□ 新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止の対策の「徹底」

基本的な対策：距離確保、マスク着用、手指手洗い・消毒、事前の検温・体調チェック

□ 校舎回りの駐車を控えることの「徹底」

西山台駐車場から、バスの利用を